山王台だより2月号

令和６年１月３１日
横浜市立山王台小学校
〒235-0016
横浜市磯子区磯子５丁目2-1
TEL：０４５（７５５）１１０７

【学校教育目標】自分のよさに気付き、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

自分自身で考えること

副校長　山田　正治

大寒を過ぎ、冬本番と言いたいところですが、ここ横浜は地球温暖化の影響か、極寒の日があっても長くは続かず、朝晩はともかく、日中は比較的寒さが身に染みるようには感じられないような気がします。そんな中、先日、早朝の校内巡回時に、校門近くの池にかなり厚く氷が張っているのに気が付きました。それまでにも氷が張っていた日はあったのでしょうが、それを見て「これぞ冬だな」と感じました。寒いことは必ずしも嬉しいことではないですが、季節を感じられる何とも心地よいひとときでした。

さて、冬と言えば駅伝シーズンです。私は陸上競技経験者ということもあり、休日は駅伝中継を見ることが多いです。今年の箱根駅伝は、みなさんご存知のように青山学院大学が２年ぶり７回目の優勝を往路復路ともに１着の完全優勝で飾りました。この青山学院大学で初優勝以来、選手以上にマスコミにとり上げられているのは、監督の原晋さんです。今では、監督の経歴は多くの場で紹介されていますので、おなじみでしょうが、原監督はご自身も元長距離ランナーでした。広島県立世羅高校時代、１５００ｍでは県トップクラスの実力者で県総体１位の成績を収めていました。ちなみに私は、原監督と同学年の広島県内の高校陸上部員（短距離走・跳躍）でしたので、監督の高校時代の生の走りを競技場で見たことがあります。

そのような県トップの素晴らしい実績でありながら、原監督は高校時代に経験した自分の走りへの取り組みを、今ではよいものとは思っていないそうです。その理由は、「やらされる練習」だったからというものでした。その思いから、大学での指導では、選手たちが常に自ら考えることを大切にしており、そのことが選手の自主性を伸ばし、昨今の好成績につながっているのではないかとコメントしています。指導者からの押し付け的な練習からの脱却とも言えるかもしれません。

このコメントを知り、大学と小学校という発達段階の違いはありますが、原監督の言葉には我々の指導にも通じるものが多いと感じました。小学校の学習においても「思考・判断」についての重要性は多く語られてきていますが、限られた学習時間の中で、いかに自ら考える活動を設定していくかという点は授業研究の中でも苦心している点の一つです。児童が自ら考えるための環境をいかに作っていくか、そして児童が「自ら考えたことによって『できた』、『わかった』」と実感できるような指導をいかに行うかを我々指導者は模索していかねばなりません。

さあ、今年度もいよいよゴールが近づいてきました。箱根駅伝で言えば復路の戸塚中継所を過ぎた第９区といったところでしょうか。子どもたちが最大限の力を発揮できるように、私たち教職員一同、伴走車からランナーに声をかける各大学の監督・コーチのように最大限の指導、支援をしていきたいと思います。